「子どもが生き生きと学ぶ生活科」

～地域とのかかわりを生かした活動を通して～

地域は，子ども達にとって生活の場であり，学習の場である。しかし，社会が変化し，地域の様子が大きく変わる中，子ども達が地域の人々，社会及び自然と直接かかわることが少なくなってきている。そこで，地域の人々や自然とかかわりながら活動したり，地域素材に視点を当てて取り組んだりすることで子どもたちが地域の良さを知り，愛着をもつことにつなげていきたい。

また，人とのかかわりやコミュニケーションが希薄化している現在，地域の人々とのふれ合いを大切にすることで互いのことを理解したり，心を通わせたりして，かかわることの楽しさを実感し，進んで交流していくであろう。地域とのかかわりを生かした活動を通して，子ども達は，たくさんの疑問や驚きを見つけ，人とかかわることの楽しさを感じ，より生き生きと学ぶ生活科が実践できると考える。

Ⅰ　研究の内容

1　実践紹介

日々の授業についての情報交換を行い授業実践に生かしていく。

地域とのかかわりを生かした活動を学び合う。

2　臨地研修

「自然観察の実践を学ぶ」

金川の森を歩き，自然の中での体験活動を行った。

3　学習会

「地域とのかかわりを生かした活動を通して」

（講師　　西条小学校　　杉山ひとみ教諭）

4　研究授業

第２学年「わたしのすてきが　はばたく」

（授業者　　松里小学校　平山沙織教諭）

自分自身の成長を振り返り，多くの人々の支えにより自分が大きくなったこと，自分でできるようになったこと，役割が増えたことなどが分かり，これまでの生活や成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちをもつとともに，これからの成長への願いをもって，意欲的に生活することができることをねらいとして取り組んだ

授業実践である。

本時では，「すてきクイズ」を通して「友達や自分のすてきを知る」ことを目標とした。リレー形式で全員の発表を聞き，誰のすてきか見つけることで友達のよさを知ることができた。また，友達からもらったすてきが書かれた付箋から，自分のよさを確信したり新たな発見（気付き）をすることができた。自分のよさやがんばりを友達にほめてもらったり認めてもらったりしたことで，どの児童も嬉しそうな表情を浮かべる姿が見られ，自己肯定感の高まりに結びつく内容だった。教師と子どもたちの日頃の温かい関わりも随所で感じられた。児童の気付きを見取り，評価につなげるワークシートのあり方についても考えることができた。

Ⅱ　成果と課題

1　成果

・実践紹介では，各校や地域の特色，実態に合わせた実践から多くのことを学ぶことができた。また，日々の授業についての情報交換を行えたことで，それぞれが悩みを解決したり授業力を高めたりすることができた。

・臨地研修では演習的な体験活動ができ，大変有意義だった。実際に指導する私たちが子どもの目線になって表現する貴重な体験ができた。指導者がどのくらい自然について知識をもっているかによって子ども達の自然への興味のもち方が違ってくると改めて感じた。これからも実体験を伴う学びの場を大切にしていきたい。

・講師を招聘しての研修会では，地域の「人・もの・こと」に繰り返しかかわり，よさを積極的に知ろうとする活動から，地域への愛着をもつ児童が育ちつつある様子が見て取れ，たいへん参考になった。また，保幼小連携やスタートカリキュラムの考え方等の提案もあり，保幼から小へどのような手だてでつないでいくか，新たな視点に気付かされる学習会であった。

・少人数ではあったが毎回の研究会の中味が深く，互いに学び合うことができ有意義だった。

2　課題

・夏季学習会については，他の研修と重なり出席できない先生も数名いた。臨地研修を計画したが，部員数が少ないところさらに少人数での研修となってしまい，とても残念だった。

・研究授業では，授業者の負担が大きくなってしまいがち。今年度，全員が資料や実践を持ち寄り単元について研究する時間を持ち，学習が深まった。今後も行っていきたい。

・１．２年生対象なので研究授業の時期が同じになり内容が似たものになってしまう。アプローチの方法を工夫したり単元を柔軟に扱うなどして対応していきたい。

（部長　　丸山　英子）